

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
(総括・分担) 研究報告書

東京地下鉄サリン事件における救護・医療対応記録のアーカイブ化のための研究

研究分担者 那須 民江 中部大学生命健康科学部 特任教授

研究要旨

松本サリン中毒事件における知見の活用

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

松本サリン中毒事件は1994年6月27日の深夜に発生した。松本市地域医療包括協議会では「有毒ガス中毒医療対策専門委員会」を立ち上げ、「健康調査委員会」と「病・医院連絡検討会」を傘下に置き、調査を開始した。健康調査委員会では10年間にわたって中毒者の健康について調査した。1995年3月20日には東京地下鉄サリン事件が発生した。この研究では松本サリン中毒事件に関する論文と著書を中心に収集し、それらをPDF化しアーカイブ化し国際的対策のための資料とする。

B. 研究方法

本年度はすでに公表された論文や著書を中心にPubMed及びGoogle検索をした。著書以外はPDF化した。

C. 研究結果

収集した情報は以下の通りである。

- 1) アンケート入力の生データ(10年目の調査)
- 2) 松本サリン中毒事件論文-日本語14件
- 3) 松本サリン中毒事件論文-英語14件
- 4) サリン関連論文-日本語3件
- 5) サリン関連論文-英語11件
- 6) 松本サリン中毒事件著書-日本語15件
- 7) 松本サリン中毒事件著書-英語3件
- 8) サリン関連著書-日本語27件
- 9) サリン関連著書-英語1件

- 10) 松本サリン中毒事件ジャーナル記事-日本語13件
- 11) 松本サリン中毒事件ジャーナル記事-英語0件
- 12) サリン関連ジャーナル記事-日本語4件
- 13) サリン関連ジャーナル記事-英語0件
- 14) 松本サリン中毒事件報告書-日本語9件
- 15) 松本サリン中毒事件報告書-英語2件
- 16) 松本サリン中毒事件報道資料-日本語103件
- 17) その他 (名古屋消防学校講義資料、名古屋市立大学環境労働衛生学講義資料)

D. 考察

松本サリン中毒事件に関する論文は日本語でも英語でも多く報告されている。報告書も日本語と英語で公表されているので、これらを参考にすれば、初期の臨床症状や疫学的調査結果も理解できると思われる。最初に行われた疫学調査の生データはすでに破棄されており、PDF化できなかつたが、10年目の調査時の生データは保存できた。一番重要な点はサリン中毒症状とサリン曝露濃度の関係を明らかにすることであるが、これまで全く行われてこなかつた。次年度の課題と思われる。可能であればシミュレーションしてサリン曝露濃度と臨床症状との関連性を明らかにし、PDF化したい。参考ではあるが、今回の報告書には分担者が、これまで講義に使用してきたパワーポイントもPDF化した。

E. 結論

次年度の結果を待つて結論を出す。

F. 健康危険情報
該当なし

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
(総括・**分担** 研究報告書)

G. 研究発表

1. 論文発表（英文論文は旧姓 Nakajimaを使用している）
1) Tamie Nakajima. Sarin attacks in Japan: acute and delayed health effects in survivors in the Matsumoto case. In Gupta/Handbook of Toxicology of Chemical Warfare Agents (3rd ed), Elsevier(4. 1):37-43, 2020
 2. 学会発表
1)名古屋市消防学校における講義（中毒概論－基礎編、特殊災害事例－松本サリン中毒事件の検証、特殊災害事例－タリウム等による中毒 2020年12月15日）
2)東京地下鉄サリン事件を通してみる事件、事故、災害における記録
第26回日本災害医学会総会・学術集会
(国際医療福祉大学東京赤坂キャンパス
2021年3月15日-17日)
- H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)
1. 特許取得
該当なし
 2. 実用新案登録
該当なし
 3. その他
該当なし